

彼岸



まもなく彼岸

岸の声を聞く。種子蒔きの季節である。いつもはこの季節になると農民の気持ちも希望に膨らんでくるのだが、今年はずこしちがつて

いるようだ。米の減反問題が農民達の胸へ大きな波紋を投げたからだ。この問題は二転三

転しながら、自主的減反という形で各農家へ天下ってきたが、これで一切の解決がつくとはいえぬ。はたしめも考えていないであろう。

かつて政府は選挙の度に、基本法農政、構

善政進歩と、農民に夢と期待を持たせるような念仏をとなえてきたが、それらの殆んどは空念仏となってしまうと、農民の傍らを素通りしてしまつた観があるが、そ

れはしかし夢を期待が消え去つただけでござんた。

一方この十年間に日本の経済は高度の成長を遂げたが、農民の現況はむしろかつてない深淵に落ちこもつてきている危険感さえある。

現在政府は総合農政の看板を打ちだしているが、これは別名、イ

そのもうすゝめ

みなさんの声、意見をお寄せください。

六千字以内

ネ作制限 農政、貧 農切り捨 て農政と も言われ ている、 その理由 は今度の 自立経営

の規模を四〜五ヘクタールの線に置いてからである。農民生活の現況とはあまりにも隔絶の観があるこの農政に対して、今度は夢も持てそうにないというのが、

農民の本心なのであろう。中には将来に対して漠然とした怖れを抱いている小心の農民もいるであろう。

政治家の考えていることは甚だ机上の論法であり過ぎる。もうすこし農村の現況に密着した行政を望むのは私だけだろうか。

だが一面、こうした農民の現況とは離反した政治が公然と行なわれるのは農民の責任だとも考えられる。日本の農民は全人口の六割だと書かれているが、国会に真の農民の代表として、自他共にゆるす代議士が何人いるだろうか。何かいけるとしても他の組織の中に

川を美しく

守ろう

この冬は気象史上珍らしい干天続きで井戸水も水道水源池も涸れ

いるのでは仕方がない。

宗教団体を基盤とする公明党でさえ第三党にのしあがってきた現在、日本人口の六割と、農協という強力な組織を有する農民が、真に政治意識に眼ざめて立上がったならば、百歳席は愚か、第一党にのしあがる可能性も十分にある訳だ。

漸く陽気さを増した三月の陽射しの下で、農民は黙々と働いているが、こころあたりで政治の場にもものを言う場所を獲得しなければいつまでも経っても、うだつはあがらないであろうことを明言して置く。(十市梨夫)



かかったが、早春の雨にやっとくつろいだこの頃である。水のある風景は私たちの心をなごやかに豊かにしてくれる。日本は水に恵まれ、その水の美しいことは世界にその比を見ない素晴らしいものであった。都市を流れる水でも思わず足をひたしたくなるようにきれいだった。が現代は町、村をとわず、流れは汚され、穢され、汚濁そのものである。私たちの南国市は川に恵まれた都市である。これらの川を中心にこの地の秀れた産業、文化は育つてき、将来美しい田園産業文化都

市として発展を約束されている。ところが南国市の川も汚なさにいってどこの川にも負けるかと許り汚されている。殊に後免町を貫流する舟入川の汚され方は全く言語道断である。物部川の清流を引いた舟入川は農業高校下の後免町に入るまではまだまだきれいだが、それが町に入って僅か一キロそここ流れる間に、投げこまれる塵芥によって目をそむかせるように汚される。川下に住む私たちはたまったものではない。同じく兼山の手になる仁淀川八田堰から引かれる新川が、弘岡の沃野をうるおして流れている。私は用務で毎月一、二回この流れに沿ってバイクを走らしたが、この川が美しく守られていることに感激させられた。この地区は昔から教育の進んだ地区として有名で、その伝統が今もつがれているであろう。南国地区も教育は大へん進んでいた筈である。私は頭を傾け現状を歎く。この川の近くに育つた私たちは、川に小便したり、穢いものを投げこむと罰があたると教えられてきた。昔の人は水神を祭り川を大切にしました。私たちは恵まれた環境をより美しく保ち、潤濁しがちな生活を豊かにするために私たちが川を美しく守ろうではありませんか。(中田善水)